

◆巻頭言◆

「環境先端県」を目指す特色のある調査研究

富山県環境科学センター所長 浦田裕治



昨年4月から全環研協議会東海・近畿・北陸支部の支部長を務めています。常日頃、皆様にはご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、富山県環境科学センターは、富山県の快適で恵み豊かな環境を保全し、創造するための環境政策を科学的・技術的に支援する試験研究機関として、県の総合計画「新・元気とやま創造計画」が掲げる環日本海地域の「環境先端県」の実現を目指して、環境調査、監視指導、調査研究、環境学習、国際環境協力等の業務を行っています。

このうち、調査研究では、標高3,000m級の立山連峰から水深1,000mを超える富山湾に至る高低差4,000mを直径40kmから50kmの富山平野がつなぐダイナミックな地形を有する本県の特性を踏まえた取組を行っていますので、ご紹介申し上げます。

本県は雪国のイメージがありますが、温暖化による冬季の気温のわずかな上昇が雪を雨に変化させるマージナルな地域であると言われていています。このことから、平成22年度から文部科学省の委託研究により海洋研究開発機構等との連携の下に、本県の2030年代の気候変化を予測しました。その結果、平野部において年間降雪量は大きく減少するものの、一過性の大雪がもたらす降雪量は大きく減少しないなどの知見が得られ、これらの予測結果を昨年4月からウェブページ「富山県近未来気候」で情報提供しています。今後は、他の研究機関との連携も視野に入れ、予測結果が気候変化に適応するための方策の検討に活用してもらえよう予測項目等を充実したいと考えています。

富山湾は、蜃気楼、世界最古の海底林等の珍しい現象が多くみられ、「神秘の海」と言われていますが、夏季に植物プランクトンの増殖によりCODの値が環境基準値を超えることがあります。平成26年10月に富山湾の「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟が承認されたことを機会に、今後とも富山湾の水質を良好に守っていくため、河川の影響を受けやすい地先海域において水塊構造を把握するとともに、水深別の栄養塩類、

クロロフィルa等の濃度分布、季節変動等から栄養塩類の挙動を明らかにし、CODの増加のメカニズムを考察する研究を進めています。

本県は降水量が多く、黒部川、常願寺川等による水文地質的に優れた扇状地を有しており、地下水に恵まれています。降雪時には道路消雪用の揚水設備が一斉に稼働することにより、一部の市街地で地下水位の大幅な低下等の地下水障害が懸念されています。このため、節水の更なる促進に向けて揚水設備の稼働を制御する降雪センサーの設定条件の違いによる効果について地下水流動モデルを用いて検討しました。その結果、降雪センサーを間欠運転モードに設定することにより、設備の稼働時間の削減及び地下水位の低下の緩和が図られる可能性が示されました。今後は、降雪センサーの設定条件の見直しによる実際の消雪状況等を確認し、支障がなければ間欠運転モードの導入を呼びかけたいと考えています。

近年、アスベストや化学物質による健康被害及び微小粒子状物質による大気汚染が社会問題化するなど、県民の安全で安心な生活を求めるニーズは一段と高まっています。また、原子力施設の緊急時防護措置を準備する区域の拡大に伴い、環境放射線監視体制の充実が求められています。

このような状況を踏まえ、喫緊の環境問題に適切に対応していくため、業務の効率的かつ効果的な執行に努めることはもとより、放射線測定機器の整備、人材の育成等による監視体制の強化、調査データから新たな知見を得る統計解析、数値解析等の解析能力の向上、そして重大な環境汚染事故、深刻な環境被害等につながる初期の災害、事故等に迅速かつ確に対応するための危機管理を強化したいと考えています。

G7富山環境大臣会合の開催による県民の皆様の環境意識の高まりをフォローの風として、今後とも環境の保全及び創造の業務を推進してまいりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。